

れいめい 黎明

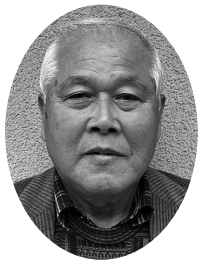
令和8年5月9日 第38号

鹿児島県立伊集院高校 関東地区同窓会会報

発行人 久保正和

ご挨拶

関東地区同窓会会長 有村 雅文 (高20期・昭和43年卒)



令和8年、伊集院高校同窓生の皆様におかれましては、ご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。

私は昨年6月21日の「同窓の集い」において、先代の東福会長の退任に伴い、後任としてこの大役をお引き受けすることになりました。東福前

第48回 伊集院高校関東地区「同窓の集い」のご案内

同窓生の皆さんへ

同窓生の皆様には、清祥にてお過ごしのことと思います。本年6月20日(土)に四ツ谷の「主婦会館プラザエフ」で同窓の集いを開催いたします。ご友人・ご家族をお誘い合わせのうえ、ご出席下さいますようお願い申し上げます。

同窓会運営への協力をお願い

同窓会の運営は、活動面では役員・幹事のボランティア活動により、資金面では皆様方の賛助金(寄付金)により支えられております。誠に恐縮ですが、会報「黎明」の発行、「同窓の集い」案内状の発送等、同窓会の活動・運営のためにご寄付いただければ幸甚と存じます。

◎一口1,000円以上 ◎郵便局窓口で同封の振込用紙をご使

関東支部役員	名誉会長 山下 清徳(高19)	幹事 幸男(高21)
相談役 東福 雅文(高20)	上四元 龍郎(高22)	
会長 有村 香代子(高26)	正井 登美子(高26)	
副会長 久保 正和(高39)	瀧 くに子(高27)	
広報部長 宮下 勉(高27)	今別府 修(高32)	
広報副部長 中村 敏也(高44)	中原 幸辰(高39)	
会計部長 中村 敏也(高44)		
監事 飯牟禮 敏(高11)		

会長はコロナ禍を含め7年にわたり、会長として同窓会の発展・繁栄のために尽力されました。幹事から通算すると40余年の長きにわたり運営に深く関わっていただきました。改めて同窓会を代表して感謝・御礼申し上げます。ご苦勞様でした。

さて、私は今は亡き中馬三郎氏から同窓会幹事の誘いを受け、以来25年余り関東地区同窓会の運営に関わって参りました。この間の貴重な経験と多くの人脉を基に微力ながら会の運営に頑張っている所存であります。

関東地区同窓会は、今年で50年目(新型コロナウィルスの為2年間「同窓の集い」見合わせ)を迎えますが、会員の高齢化、最近の時代風潮として若者の同窓会離れ等から、会員数も年々減少傾向にあり、今後の同窓会運営に関してある種の危機感と憂いを感じております。

同窓会の運営は、皆様方から賛助金を拠出して頂いております。この浄財を関東地区同窓会の活動資金として有効に活用させていただきます。

また活動面では、私以下十数名の役員・幹事のボランティア活動により支えられておりますが、高齢化等により年々厳しくなっております。以上、現状について十分ご理解いただき、改めて会員の皆様方の同窓会活動への積極的なご参加と全面的なご支援・ご協力をお願い申し上げます。

同窓生の皆様にもお声がけいただき、一人でも多く参加していただくと幸いです。結びに、会員の皆様のご健勝でのご活躍を祈念申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

用頂か、ATM等で次の口座にお振込みをお願いします。金融機関名 ゆうちょ銀行 支店名 〇一九(ゼロイチキョウ) 預金科目 当座

口座番号 0501001 受取人名 関東伊集院高校同窓会 (カントウイシユウインコウゴウドウソウカイ)

お振込み頂く際は、お名前のお後に期の数字を記入頂きますと幸いです。(例 高校39期の場合、「39」クボマ)

受付開始11時

二 場所 主婦会館プラザエフ

三 交通 JR中央・総武線 四ツ谷駅 麹町口から徒歩1分 丸の内線 四ツ谷駅 1番出口から徒歩3分

四 会費 七,〇〇〇円(男女とも) 同伴者(二名で一〇,〇〇〇円)、お子様は無料。(当日会場にて、徴収いたします。)

ごあいさつ

伊集院高等学校 同窓会会長 宮路 高光(高21期)



母校、伊集院高等学校に咲き誇る桜のつぼみも一気にほころび、心弾む季節となりました。関東支部の皆様におかれましては、穏やかな春をお迎えのことと拝察し、心よりお慶び申し上げます。日頃より同窓会活動に対し多大なるご理解と温かいご協力を賜り、深く感謝申し上げます。

また、同窓会では芸術鑑賞会への支援や、進路選択特別授業「徳重塾」への講師委嘱など、学校の教育活動へ多角的に協力して参りました。特に、創立七十年記念事業で設立した「教育振興基金」による部活動支援は大きな結果を見せております。昨年度は、水泳・陸上・音楽の各々が九州大会へ、さらに弓道・写真・書道・演劇の四部が全国大会への出場を果たしました。本年七月に秋田県で開催される「全国高等学校総合文化祭」

ごあいさつ

校長 谷川 敬



伊集院高等学校関東同窓会の皆様、ますますご健勝でのご活躍のこととお慶び申し上げます。日頃より母校の教育活動に対し、多大なるご理解と温かいご支援を賜り、心より感謝申し上げます。一昨年に創立百周年という大きな節目を刻んだ本校は、多くの卒業生の皆様が長きにわたり築き上げてこられた伝統を大切に受け継ぎ、今、「百一年目」の新たな一歩を踏み出しております。百周年記念事業を通じて再確認させていただいた、地域と同窓会の皆様との絆を大きな支えとし、本校は現在、これからの時代に即した教育の在り方を模索しながら、着実に歩みを進めております。

本校では、ご三年間、生徒一人ひとりの可能性を丁寧に引き出し、自ら未来を切り拓く力を

たな時代への挑戦を続けております。昨年十一月五日の創立記念日には、「高等学校DX加速化推進事業」の一環として、東京大学薬学部の池谷裕二教授をお招きし、「誰でも天才になれる!」脳科学者が教える効率的に学ぶためのコツ」と題した記念講演会が開催されました。一時間半にわたるご講演では、急速に進化するAI技術の知見を交えつつ、脳のメカニズムを生かした学習法を生徒たちに分かりやすく伝授していただき、未来を担う後輩たちにとって、自らの可能性を再発見する極

にも三つの部の出場が既に決定しており、同窓会としても彼らの躍進を力強く応援していく所存です。大正十三(一九二四)年の開校以来、本校は約二〇、〇〇〇名の卒業生を社会に送り出して参りました。去る二月二十七日の入会式では、新たに百五十九名の若き同窓生を迎えました。少子化の影響などにより生徒募集は年々厳しさを増しておりますが、充実した高校生活を送る生徒たちの姿を広く発信し、一人でも多くの意欲ある生徒が集うよう、同窓会も尽力して参ります。

善うため、これまでの教育活動を改めて見直し、いくつかの新しい取り組みを開始いたしました。具体的には、複数の視点からきめ細かな指導と支援を行う「生徒の成長を多角的にサポートする」「二人担任制」の導入をはじめ、従来の定期考査に代わり、学習内容の理解度を適切なタイミングで確認できる仕組みとした「単元テスト」への移行、秋のリフレッシュ期間を設け、学びのメリハリと充実を図る「二学期制」の実施、そして補習や土曜授業の在り方を再編し、生徒が主体的に時間を活用できる環境を整えた「朝自習」の充実など、学びの質を高めるための工夫を重ねてまいりました。

こうした「生徒が主役となる学び」への転換は、今春、確かな成果として表れております。今春の卒業生における国立大進学現役合格率は27%に達し、令和五年度より1.7%から大幅な上昇を見ることができました。自律的に学ぶ環境が、生徒たちの確かな学力と進路実現

を後押しする一助となっていることは、我々教職員にとっても心強い限りです。また、令和七年度からは文部科学省の「DXハイスクール(高等学校DX加速化推進事業)」の指定を受け、最新のICT機器を備えた「探究ルーム」を活用し、デジタル技術を思考の道具として使いこなしながら地域課題等に挑む、一歩踏み込んだ探究学習にも取り組んでおります。

部活動においても、伊高生たちは文武両道の伝統を真直に体現してくれました。演劇部、写真部、書道部が全国大会出場を果たしたほか、水泳部、陸上部、音楽部が九州大会へ進出。ダンス部が県大会優秀賞(二位相当)に輝き、県の英語スキット大会でも最優秀賞を受賞するなど、多様な分野において生徒たちは自らの可能性を信じ、「伊高フラインド」を胸に頑張っています。

今春の卒業式では、保護者の方との御縁により、アーティスト「C&K」のお二人がサプライズで駆けつけてくださいました。

今後の職員一丸となり、皆様の期待に応えらるよう精進してまいります。同窓会活動のさらなる充実と、会員皆様の御健康と御多幸を心より祈念申し上げます。結びのご挨拶とさせていただきます。

令和七年度「同窓の集い」卒業生講演

可能性を信じて

47歳・専業主婦からの挑戦

蜷川(旧姓樋口) 恵美子(高36期)

【講演者紹介】

47歳で起業し、イメージコンサルタントとして活動。自身の経験を糧に、丁寧で温かな姿勢を大切にしてきた。「多幸感メイク」を通じて、女性が前向きに生きるきっかけを届けている。

でも、いざなってみると、ぜんぜん違う。

「60歳かあ？本当に大丈夫？」と、毎日心の中で自問自答しています。

そんな、まだまだ未熟な還暦女子です(笑)

◆「右も左もわからなかった私」

私は短大卒業後、大手の損保会社に就職しました。

ですが1年目は研修ばかりで、1年後には結婚退職。

今思えば、会社にとって私は「研修費ドロボー」だったかもしれない(笑)

その後は夫の転勤で引っ越しの連続。各地に友人はできましたが、引っ越しは大変でした。

◆「10円ハゲの派遣OL時代」

東京に落ち着いた頃、下の子が小学生になり、派遣で社会復帰しました。

OL歴わずか1年の私にとっ、社会はまさに修行。仕事から帰らず、帰宅しては毎晩ため息。

気づけば、頭に10円ハゲができていた時期もあります。

必死に4年間続けましたが、「これは私のやりたいことじゃない」

そんな想いが、ずっと心にありました。

◆「60歳って、もっと立派な大人だと思ってた」

若い頃かと思ってた60歳は、落ち着いていて、どっしり構えた「人生の達人」。

そう強く感じるようになりました。

◆「多幸感メイク」で笑顔の連鎖を

私が提唱しているのが、「多幸感メイク」＝幸せそうに見えるメイクです。

自信を失った女性、鏡を見るのがつらい女性、「もう私はキレイになれない」と諦めた女性に

笑顔を取り戻してもらおう。その笑顔が家庭を明るくし、社会を温かくする。

私は女性が笑顔でいることが、立派な社会貢献だと思っています。

◆「起業は、甘くなかった」

会社員としての安定と、起業して自分の力で稼ぐことは別物でした。

どうしたら知ってもらえるのか。どうしたら信頼してもらえるのか。

「マーケティング」も知らず、必死に発信を続ける日々。必死にアメブロを始め、コソコソ発信を続けました。

◆「使命」に出会う瞬間

実は私には人生を変える出来事がありました。28歳の時に経験した第一子の死産です。

「このまま人生を終わらせてもいい」と思うほど、心が折れました。

そんな私を救ってくれたのが、メイクとおしゃれでした。

鏡の中の自分に、ほんの少し光が戻った。

この経験から、「見た目を整えることは、心を整えること」

◆「私は、しっかり者、ではありません(笑)」

私は昔から「しっかりしてるね」と言われがちですが、実はかなりのボンコツです。

役割がある」と信じて探すこと。探すとは決めた人にしか、ライフワークは見つかりません。

◆「想像できることは、実現できる」

人は、想像できることしか実現できません。

でも、「こうなりたい」という「欲」がなければ、想像も生まれない。

「キレイになりたい」「注目されたい」「人の役に立ちたい」「誰かに喜んでもらいたい」

そんな気持ちをもっと素直に持つてよかったです。

年齢は関係ありません。「もう遅い」なんて、ありません。

小さな想像が、人生を動かします。

私も、「女性の外見を整えること」で、自信や勇気を与えられるかもしれない」と想像したから、この美人養成塾を始めることができました。

でも、それは単に「自分のため」だけではありません。

◆「わがばっかじゃ、いかん！」

これは、私が生き方の軸としてきた、母の言葉です。

鹿児島島の言葉で、「自分のことばかり考えたらダメよ」という意味です。

母はよくこう言っていました。「自分だけが幸せならそれでいい、じゃなくて、周りも一緒に幸せになることを考えなさい」

この言葉が、私の根っこにずっとあります。

だからこそ、私は「女性がキレイになって笑顔でいられること」は、その人のためだけでなく、家族のため、社会のため、そして未来のためになる」と本気で思っています。

◆「女性は家庭の太陽」

女性の笑顔は、家庭を明るく

本部総会参加報告

会長 有村雅文

令和7年8月16日(土)鹿児島市内の城山ホテル鹿児島において、本部同窓会が開催され、関東地区からは山下佐明名誉会長(高10期)と有村(高20期)が参加致しました。

総会に先駆けて、支部長会が開かれ、各支部の活動報告、情報交換等が行われ、また、昨年創立100周年記念事業の決算報告もなされました。支部では、東海・近畿の両支部は不参加でした。

引き続き行われた総会では、幹事期の高37期の協力により、90余名の卒業生が参加(内関東地区からの参加は6名)盛会でした。恒例のミニ講演会では九万田信行氏(高37期)が、「県内の犯罪情勢と特殊詐欺の現状」と題して講演されました。

懇親会では、学生時代の懐かしい思い出や、参加者の近況報告が聞かれました。



講演者プロフィール

講演者プロフィール



清本弘毅氏 (高36期・昭和59年卒業)

●出身地 伊集院町下合口

●略歴 昭和59年4月 横浜国立大学入学。在学中より環境調査・水質分析事業に携わる。平成10年 合資会社コペルニクス(現・株式会社コペルニクス)を設立。一級管工事施工管理技士、電気工事士のほか、設備関連資格を多数保有。現在は建設設備業を営みながら令和5年千葉県旭市に開拓からすべて手作りのキッチン工場「あさひシーサイドコテージ」を設立。

●演題 いつものどんべ、何度失敗しているかわからない。でも、生きろよっ。

副題「ちょいしめた、けど、また、気張るしかなかね」という生き方について

副題「ちょいしめた、けど、また、気張るしかなかね」という生き方について

同窓生インタビュー

●中原 幸辰 (高39期。東市来町出身)



数年後、会社方針との行き違いからその方が退職する羽目になってしまったんです。アルバイトをしながら生活すると聞き、責任を感じて私も一緒に退職し、会社を立ち上げました。当時、働いていた妻が「私が何とかするから」と背中を押してくれたことも、大きな支えでした。

●起業後は大変だったのでは？

最初の2年間はほぼ無給でした。昼は会社、夜は派遣でサンドイッチ工場やスーパーの梱包の仕事を掛け持ちしていました。9時から17時が会社、19時から翌5時が工場勤務。睡眠は電車の中です(笑)。この生活を長く続けるのは年齢的にも厳しいと感じ、早く会社を軌道に乗せたい一心で営業に力を入れました。趣味はゴスペル。

●少しは楽になりましたか？

楽にはなりましたが、集中する時間が欲しくて今でも週に2回は、会社の倉庫でパレットの上に寝袋を敷いて寝ています。大きなパレットなので、電車より快適なんです(笑)。通勤時間だけでも週に6時間節約できるので、デスクワークの効率と睡眠時間を確保するためです。

●「プロファイル」販売からテレビ出演まで

●会社が軌道に乗ったきっかけは？
ロフトさんで商品を取り扱っていただいたことが大きかったですね。そこから全国各地で実演販売の声がかかるようになり、テレビ番組「有吉ゼミ」でも紹介されました。この春には地上波のテレビショッピングにも出演予定です。

●座右の銘は何ですか？

(即答で)「なんとでもなる」です。考えるだけでは解決しないことも多いので、まずはやりながら考えるようにしています。会社名の「フナツヤパン」も「目標に向かって動きながら考える」という意味を込めています。

●今でも会社に寝残りで寝泊まり

●起業のきっかけは？
もともと起業するつもりはありませんでした。当時の勤務先は受託開発の会社で、入社20年目に商品開発部を立ち上げ、外部セミナーで知り合った企画力のある方をリクルートしました。ところが

●天性のポジティブ

●そのコミュニケーションはどこから？

福岡での学生時代に、さまざまなアルバイトを経験したことが大きいと思います。新幹線の売り子、ラーメン店、展台、飲み屋などですね。新幹線の売り子は4年間続けました。つい2年前にその販売が終了した際には、その方から「同窓会」に招いていただきました。ポジティブさについては、「無駄にポジティブ」とよく言われます(笑)。

●成長できる環境

●なぜ皇宮警察を志したのですか？
父が自衛隊に勤めていた影響は大きいです。正直に言いますと、勉強があまり得意ではなくて(笑)。体力が求められる仕事であれば自分に向いていると考え、東京への憧れもあり志望しました。

●東福里沙 (高49期。東市来町出身)



●「プロファイル」
北海道生まれ。小学6年生で鹿児島へ。上市来中学校では陸上部に所属。高校ではソフトボール部でキャッチャーを務めた。高校卒業後海上保安庁に入庁。その後、国家公務員試験を再受験し、皇宮護衛官に採用された。皇宮警察では、制服勤務、皇族方の側衛官、皇宮警察学校の教官など、幅広い職務を経験。趣味は登山とスキューバダイビング。

●皇族を護衛する仕事

●皇宮警察とはどのような組織ですか？
天皇皇后両陛下を始めとする皇族の方々の護衛と皇居、御所等の警備を専門に行う警察です。職員数は約940人で、明治19年(1886年)に設立され、令和8年5月1日に創立140周年を迎えました。主な勤務先は、皇居・赤坂御用邸の他、京都御所や葉山・那須・須崎

の御用邸などがあります。

●東福さんほどのような業務を？

皇族の方々を直近でお護りする「護衛」業務を許15年間担当しました。また、皇宮警察学校の教官として、法学講義や拳銃実射の指導を行いました。昨年は京都護衛署の警備課長として1年間勤務しました。現在は皇居にある皇宮警察本部で主にデスクワークに従事しています。

●成長できる環境

●なぜ皇宮警察を志したのですか？
父が自衛隊に勤めていた影響は大きいです。正直に言いますと、勉強があまり得意ではなくて(笑)。体力が求められる仕事であれば自分に向いていると考え、東京への憧れもあり志望しました。

●他に伊高出身者はいらっしゃいますか？

私の3つ下に並松さんがいます。彼のお姉さんが高校の同級生で、まったくの偶然でした。他にも、退職された松元出身の馬場さんという先輩もいらっしゃいます。職場には鹿児島県人会もあり、当初は約50人でしたが、現在は約15人に減っています。昨年、京都で勤務していた際、京都府警の鹿児島県人会にも招いていただきました。

●体力的、精神的にも大変では？

はい、確かに日々の業務は体力と精神力の両方が求められますが、そこにはやりがいと充実感がたくさんあります。

●武道は必須ですか？

剣道か柔道などの武道は必須で、三段取得を目指すよう指導されます。私は剣道を選び、4歳のときに三段を取得しました。暑中稽古・寒中稽古に加えて、週2回の武道推進日が設定されており、皇宮警察本部にある武道場(済寧館)でいつでも稽古できる環境が整っています。

●スキー・水泳・馬術まで

●護衛の仕事は大変ですか？
護衛任務中は、皇族の方々の直近で任務に当たります。スキーにも同行する

ですが、皇宮警察学校に入るまで一度も滑ったことがありませんでしたが、入校後に必死に練習しSAJ(日本スキー連盟)公認スキー検定1級を取得しました。水泳では3キロの速泳にも同行しました。プライベート時の護衛では、周囲に気づかれないよう細心の注意を払います。

●危険を感じたことは？

危ない状況を未然に防ぐため、事前に準備をしっかりとしています。そして危険な場面でも身体が勝手に動くように日々訓練を重ねています(笑)。

●馬にも乗るのですか？

外国の新任大使が天皇陛下に信任状を捧呈する「信任状捧呈式」の際、東京駅から皇居宮殿まで馬車で移動します。その際の大使の護衛として、騎馬隊として馬に乗ることもあります。



右から2番目の茶色い馬に騎乗しているのが東福さんです。

●同窓生に伝えたいことは？

皇宮警察・・・初めて耳にする方も多いかと思います。今回このインタビューを通じて皇宮護衛官の仕事を知っていただき、伊高出身者がこのような仕事に就いていることに少しでも興味を持っていただければ幸いです。皇宮警察のX(旧Twitter)やInstagramもありますので、ぜひチェックしてみてください。

●大石(小園) まい (高56期。吹上町出身)

●「プロファイル」
熊本県生まれ。福岡、千葉を経て小学1年生で鹿児島へ。高校では美術部に所属。横浜市立大学卒業後、小田原市で数

年間高校教諭を務める。現在は子育てをしながら、神奈川県大井町の町議会議員を務めており、2期目。

●政治家への転身

●もともと政治に興味があったのですか？
まったくありませんでした。投票に行く程度でしたね。意識が変わったのは高校教諭として働いていた頃です。家庭環境が複雑な生徒が多く、自分の生い立ちとの違いに戸惑いました。社会の制度や仕組みが、もう少し整っていれば救われる人がいるのでは、と思うようになりました。

●立候補のきっかけは？

夫と職場結婚だったため、私が高校教諭を辞め、中学の非常勤講師などをしていました。仕事をしていた時期に、子育てをしながら国政に挑戦した、あさか由香さんを党派を超えて応援する動きに関わりました。そうした経験を通して、住んでいる町の議会に子育て中の女性の代弁者がいないこと、所属政党から立候補者がいなかったことが重なり、35歳で立候補しました。

●印象に残っているエピソードは？

原付通学中に事故を起こし、救急車で運ばれたことがあります。怪我は軽かったのですが、救急車の中から連絡すると、先生がご心配してくださり、「生きた心地がなかった」と言われたのを覚えています。

●今後の目標は？

政治の世界はマイナーで、私の政界はさらに少数派です。偏見を持たれることもありますが、思想や立場が違っても一緒に生きられる社会がいい。考え方が違っても、話し合いで解決できる平和な世の中になるように、まずは自分の考えをしっかりと伝えていきたいです。



●街頭演説は心が折れるのでは？

慣れですね。演説中を通りすがりの方から「そんなのありえないだろう」と

第47回

関東地区「同窓の集い」報告記



関東地区「同窓の集い」は、令和7年6月21日(土)に、四ツ谷駅前「主婦会館プラザエフ」にて52名の参加のもと行われました。

東福会長からは、まず出席いただいた会員並びに賛助金を拠出いただいた方々へ感謝の言葉がありました。



伊集院高校HPに黎明のPDFを掲載してあります。HPの掲載箇所が変更した場合QRコードから直接遷移しませんが、その場合は伊集院高校HPからご確認ください。

次に、高36期の蜷川恵美子(旧姓 樋口)氏に「可能性を信じて」47歳主婦からの起業と題して講演していただきました。



http://www.edu.pref.kagoshima.jp/sh/jumin/

- 令和7年 4月 会報「黎明」第37号編 集作業・久保広報部長他 4月6日(日)花見(食事会) 有村幹事他7名

「自律・忍耐・友愛・公德」— 今回も3名の方に同窓生イベントヒーを実施し、この5年間で計14名の方から直接お話を伺う機会を得ました。

同窓会レクリエーション



親睦ゴルフ大会

第18回同窓会ゴルフ大会を令和7年10月2日(木)野田市パブリックゴルフ場(けやきコース)に於いて開催しました。



高9期から44期までの14名(2名不参加)により終始和やかな雰囲気の中でプレーを楽しむことができました。

今年の様々な企画を行って参ります。少しでもOB会の皆様の懇親が深まればと思えます。

令和7年度も同窓会の活動・運営のために、92名の皆様から多額の寄付を戴きました。

高3期 酒匂寿郎 高4期 出口重遠 高5期 馬場一夫 高6期 藤嶋(松下)洋子

高11期 久留純子 高10期 唐木沢森岡啓子 高9期 山下佐明

高26期 有馬人志 高27期 瀧(新居)くに子 高27期 宮下(末吉)勉

ダブルペリア方式で実施したコンペの入賞者は下記の通りです。

優勝 切手久夫(高23期) 準優勝 神野一則(高37期) 三位 飯屋勝秀(高27期)

2025年度、伊集院高校同窓会の企画は以下を行いました。

高6期 松尾(酒匂)薫 高7期 加藤(吉永)睦子 高8期 深沢(徳留)美智子

高18期 大内田澄隆 高18期 金子(宮内)いく子 高18期 新山田信夫

高22期 上四元龍郎 高22期 重留伸一 高23期 匿名

高32期 谷口修之 高31期 東福谷口(みゆき) 高31期 赤崎修

食事会

2025年度、伊集院高校同窓会の企画は以下を行いました。



高3期 伊集院義男 高4期 門松忠吾 高5期 新村昭則

高12期 野口良寛 高19期 吉永敏郎 高20期 有村雅文

高23期 早崎(馬場)良子 高23期 池野(馬場)良子 高23期 満富和郎

高36期 田代集朗(俊朗) 高36期 丸野輝哉 高36期 坂口義彦

賛助会員のご紹介

令和7年度も同窓会の活動・運営のために、92名の皆様から多額の寄付を戴きました。

令和7年度活動報告

編集後記